巻頭特集

少年騎手が人馬一体となり、急坂を一気に駆け上がる

猪名部神社の上げ馬神事

毎年4月の第1土・日曜日の2日間にわたり、猪名部神社では春の例大祭「大社祭」が開かれる。当日は「上げ馬」「流鏑馬」の両神事が奉納され、多くの見物客で賑わう。上げ馬神事は地域で継承されてきた貴重な伝統行事として、平成14（2002）年3月、三重県の無形民俗文化財に指定された。

青少年の士気向上を図るために始まった

貝弁郡東員町に鎮座する猪名部神社。創祀・創建年代は明らかでないが、『延喜式神名帳』にその名が見える。祭神の伊香我色男命は、『新選姓氏録』によれば当地を本拠とした豪族猪名部氏の祖という。猪名部氏は建築技術に秀でており、『日本書紀』にも優れた木工技術集団として大和朝廷に仕えたことが記されている。名工・猪名部百世は、奈良の東大寺大仏殿の建立に際して棟梁を務めた。

和銅6（713）年、諸国に風土記の編さんを命ずる詔が出され、国・郡・郷の名称は2文字の好字に変えるよう勅命が下った。「猪名部」の族名が転じて「貝弁」とされ、これが郡の名となり、現在に受け継がれている。

大社祭は建久3（1192）年、貝弁郡司の貝弁三郎行綱が源頼朝の上意に従い、青少年の士気を鼓舞するために、流鏑馬の神事を奉納したのが始まりとされる。建仁3（1203）年、行綱に伊勢国の守護暗殺の濡れ衣を着せられる災難が降りかかった。疑いが晴れたのは猪名部神社の加護のおかげと、境内の一隅に上げ坂を築き、上げ馬神事を奉納して以来、幾度か中断した時期はあったものの、今日まで継承されてきたと伝わる。

全国的にも珍しい、馬で急坂を駆け上がる神事の起源について「もともと追野原というところで、笠懸など騎射の腕が競われていました。馬で坡を越えることもしていて、上げ馬はそれを発展させたものと思われます」と宮司の石垣光麿さんは見解を示す。

4地区より騎手を選出 祭り前には参籠生活

「乗り子」と呼ばれる騎手は北大社、南大社、長深、松之木の4地区から選出される。北大社と南大社が各2人、長深と松之木が各1人の計6人の高校1、2年生。近年は少子化の影響で、乗り子が5人となっている。

猪名部神社の石垣光麿宮司

選ばれた乗り子たちの大半は乗馬経験がない。祭礼の1カ月ほど前から、地区ごとに早朝や夕方の時間を当てて、馬に乗って走る練習が始まる。

さらに1週間前になると、乗り子たちは家を離れ、各地区の区民会館や集会所などで参籠生活に入る。朝晩の貝弁川での禊ぎと、猪名部神社への参拝が欠かさず行われ、心身を清め、神の使いとして祭礼当日を待つのだ。

そんな彼らの世話や、祭りのさまざまな準備を中心になって担うのが、16歳から23歳までの若者たちで組織された青年団である。参籠中の賄いは、入団1年目の「日若い衆」が務める。その食事についても決まり事があり、たとえ乗り子の母親が作ったものであっても女性が調理した差し入れは禁止であるほか、祭り当日は刃物を使ってはいけないなどとされている。

乗り子の装束は色鮮やかな服帯に袴を履き、矢箱を背負う武者姿。それらの用意も青年団の役目で、頭の花笠や手にする花鞭も手作りする。花笠は地区ごとに違っていて、北大社は「しょうぶ」、南大社は「鳳凰」、長深は「ぼたん」、松之木は「松」が飾られる。

伝統と誇り、地域住民の思いを胸に上げ馬に臨む

上げ馬は試楽祭（土曜日）では乗り子1人が2回、本楽祭（日曜日）では1回挑む。両日とも、その前に「合駆」というウォーミングアップのようなものを行うが、坂の手前まで馬を走らせるだけで、駆け上がることはしない。上げ馬はぶっつけ本番なのだ。

坂の高さは約2・5メートル。騎乗しても目線より高い。まさに絶壁が行く手に立ちはだかるのだ。その恐怖心を克服して、乗り子は坂を目指す。

自身も16歳のとき、乗り子を経験した石垣宮司。「もう47年前になりますが、今でも当時のことは鮮明に覚えています。土砂降りの雨のなか、なんとか坂を登り切った達成感は忘れていません。同時に、周りを見渡したとき多くの喜ぶ顔が見え、本当に大勢の方に支えられてきたことも実感しました」と振り返る。

大社祭の最後は「お手打ち式」（通称：おっしゃんしゃん）で締める。境内に乗り子や青年団をはじめ地域の人々、見物客などが集まり、歌に合わせ、手を打って祭りの完了を祝う。多くの人が目に涙を浮かべ手を打つ姿から、いかに上げ馬神事が地域で大切に守り受け継がれてきたかがうかがえる。

今年の大社祭は4月7日（土）、8日（日）に開催。普段は静けさに満ちた猪名部神社も、この2日間は急坂に挑む乗り子への声援や歓声で沸き返る。

神楽殿前の黒い神馬の像は、『日本書紀』の「甲斐の黒駒」の話に由来する。処刑される寸前だった工匠の猪名部真根（いなべのまね）を救ったのが、雄略天皇の赦免を伝えるために使わした駿馬で、それが「甲斐の黒駒」であるという

1_急坂を駆け上がる「上げ馬神事」。人馬一体となった迫力に魅了される 2_迎えの式。北大社は松之木を、南大社は長深を客として迎え、神社まで行列を組んで境内に入る 3_上げ坂で待つ青年団の準備が整うと、いよいよ上げ馬神事が始まる 4_約1カ月にわたる乗馬練習と、1週間の参籠生活を経て迎えた祭礼当日。乗り子たちは颯爽と馬を駆る

<Information>

■猪名部神社
員弁郡東員町北大社 796
電話 0594-76-2424

■大社祭時間表
試楽祭 4月7日（土）
10：00 乗込
11：00 本殿祭典
11：00 合駆
13：00 上げ馬
16：00 渡御
16：30 流鏑馬

本楽祭 4月8日（日）
10：00 乗込
11：00 本殿祭典
11：30 合駆
13：00 上げ馬
15：00 神霊渡御
15：30 祭典・流鏑馬
18：00 還御・お手打ち式

文／長屋整徳　写真／東員町提供・青野穂波　デザイン／ABBEY ROAD